

ハイパーサーミアの技師の育成と今後の課題

原三信病院 放射線治療・ハイパーサーミアセンター

元村 哲也、真鍋 麻実、永田 詢弥、嶽本 洋、古藤 和浩、寺嶋 廣美

当院は放射線治療兼任医師2名、HT専属看護師1名、臨床工学技士1名（2名でローテーション）で年間約1200件の治療を行っており、技師の役割は、装置の保守管理、治療スケジュール管理など多岐に渡る。限られた人材で円滑に業務を行うためには、ローテーションを前提とした多重業務可能な人材育成が不可欠である。今回業務可能な人材育成の取り組みと今後の課題を報告する。研修内容はハイパーサーミアに関する講義、放射線治療などの関連する部門の見学と他職種による講義、マニュアルとチェックリストを用いた指導である。技術習得の評価は、研修プログラム評価表と、習得内容や必要な改善点を記載する日誌を、指導者が指導日毎に記録することで行った。技術習得まで40症例と予想していたが、目標症例数に達した時点の評価では、ほぼ一人で全業務を遂行可能になっていた。評価表や日誌を用いることで習得達成の項目が遺漏なく把握でき、効率的に教育できたと考える。また患者は現在受けている治療に不安や疑問を持っていることが少なくなく、患者との会話や接遇態度が、患者の精神状態に影響することが想定される。このような事から、専門的知識を習得するために、医師・看護師などからの講義が必要だと思われた。今後はこれらの要素も追加し、効率良い教育システムを目指して誰が指導しても一定のレベルの育成が行えるよう取り組んでいきたい。